

服務倫理委員会の取組

『立場を変えて考える』

南相馬市立小高・福浦・金房・鳩原小学校

「児童や保護者の気持ちを文字に起こし、

多様な視点から事例を振り返ることで、不祥事防止を図る」

【服務倫理全体会の運営について】

- 本校の服務倫理全体会では、「体罰」「セクハラ・わいせつ」「交通事故・飲酒運転」「情報漏洩」「公金処理」について月ごとのテーマを決めて全職員で協議する機会を設け、規範意識を高めている。全体会の際は、7名の服務倫理推進委員が、資料作成から全体会の運営・記録までを分担し、ローテーションを組んで実施している。また、全教職員で話し合う時間を確保するために、第2週の金曜日に行うよう日課表に位置付けている。
- グループ協議を取り入れ、多様な考え方を知ると同時に、セーフティーネットとしての役割が果たせる職場環境づくりに努めている。



(グループ協議の様子)

【児童や保護者の気持ちを文字に起こし、事例研究をした取組】

「信頼される学校づくりを職場の力で【平成29年度改訂版】」にある事例を「児童」「保護者」「地域住民」「同僚」といった異なる立場から捉え、どのように感じたり考えたりするのかを各自付箋紙に記入した。

(取り上げた事例)

B教諭は、教室において、児童1名に対し、学級朝の会で1分間スピーチをさせた際、追質問をしたが同児童が答えられなかっただけ、「発言したら着席するように」と指示した。同児童は2日間（体育等を除く教室で授業を行った6時間）にわたり椅子に着席せず、立ち膝や体育座り等の姿勢で授業を受けたり、給食をとったりした。

《児童の立場から考えた一例》

- 腹が立つ、絶対に言わないぞ
- 困ったなあ、どう言っていいか分からないだけなのに
- 私の先生は意地悪だなあ

《地域住民の立場から考えた一例》

- 信用できない学校だ、もう協力しない
- 昔はあったかもしれないが
- 教育者として指導法が未熟だな

《保護者の立場から考えた一例》

- 本当かどうか、事実を確かめたい
- 信じられない、教育委員会に相談するか
- スピーチができるようになるよううまく声をかけてくれればいいのに
- 場合によっては、マスコミに伝えるか

《同僚の立場から考えた一例》

- 発達障がいの傾向かもしれないことに配慮しないといけない
- 1日目に相談してくれれば・・・
- 体罰への理解や認識が足りない

上記のような意見をグループ内で話し合い、最後に予防策についてまとめ、代表者が発表する。後日、集めた付箋紙をKJ法で類型化し、全職員に印刷・配付することで、他のグループの考え方や予防策についても広く知ることができ、より確実な不祥事予防に努めている。

成果と課題

- 異なる立場に立って考え、文字に起こすことにより、多様な視点から事例を具体的に捉え、客観的に日常の行動を見つめることができ、教職員一人ひとりの不祥事防止への意識が高まったと思われる。
- 考えを文字に起こすことでグループの話し合いが活発になり、同僚として相互理解を深め、セーフティーネットとして職場の機能を高めることができたと思われる。
- 今回の取り組みは有意義な研修だったという声が多く、生徒指導全体会等の他の校内研修でも同様の取り組みを行い、校内研修の活性化を図っている。
- 服務倫理全体会を確実に実施するために、打合せや行事との日程調整が必要になる。